

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援センター 三気の家		
○保護者評価実施期間	R8年3月16日		～ R8年3月26日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 3
○従業者評価実施期間	R8年3月16日		～ R8年3月26日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 3
○訪問先施設評価実施期間	R8年3月16日		～ R8年3月26日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 2
○事業者向け自己評価表作成日	R8年3月31日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・当園の児童発達支援を利用しているごどもさんがほぼ対象であるため、療育中の様子を把握している支援員が訪問支援を行っている。日頃の関りを踏まえた具体的な支援内容を訪問先へ伝えることができ、連続性のある支援に繋がっている。	・療育後に毎日の振り返りを実施し、職員間で意見交換を行いながら支援内容の検討を行っている。共有した内容をもとに、次の支援へつなげ、支援の質の向上を図っている。	・訪問前に事前の会議を実施し、支援方針や関わり方の確認をこなうことで、訪問先により丁寧で一貫性のある支援の提供を目指す。
2	・保護者との定期的な面談を実施し、家庭や訪問先での様子を丁寧に共有する事で、細かな現状の把握に勤めている。得られた情報をもとに支援内容の見直しを行い、困り事の早期発見・早期対応に繋げている。	・面談報告の時間を設定し、支援内容や利用児の様子について職員間で共有している。情報共有を通して支援の方向性を統一し、継続的で一貫した支援の提供に繋げている。	・面談内容や日々の記録をもとに事前に話し合いを実施し、支援方針の確認や役割分担を明確にする事で、より質の高い支援の提供を目指す。
3			

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	訪問時には課題は一時的に解決できているが、継続的な支援の取り組みや情報共有が十分に行えておらず、日常業務の中で継続支援に繋げる事が難しい状況にある。	訪問時には個別の課題に対してその場での対応は出来ているが、継続的な支援としての計画的な取り組みや記録の積み重ねが十分でない。日常業務も並行しながらの取り組みになるため、支援が単発的になりやすい事が要因と考えられる。	継続した支援に繋げる為、簡潔に記録できる様式やチェックリストを活用し、支援内容の見える化を図る。また、短時間でも定期的な振り返りや情報共有の場を設け、職員間で共通理解を持つ体制を整える。継続した支援に必要な時間を確保できるように工夫する。
2			
3			